22

人とわれおなじ十九のおもかげを
うつせし水よ石津川の流れ

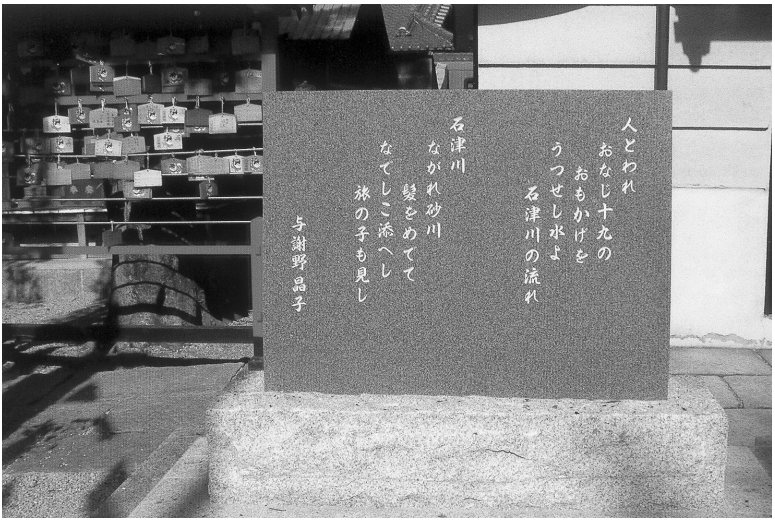
歌意　あの人と私、同じような19歳の面影を映した石津川の清らかな水の流れはいつまでもたえないことでしょう。

掲出歌集　『みだれ髪』明治34（1901）年8月
初　出　「明星」明治34年1月号（晶子23歳）

石津川ながれ砂川髪をめでて
なでしこ添へし旅の子も見し

歌意　石津川、この流れゆく砂川を、私の髪をほめて撫子を髪に挿してくれた旅の子もみたことでした。

掲出歌集　『小扇』明治37年1月
初　出　「明星」明治35年7月号（晶子24歳）



・所 在 地　石津神社境内　（堺区石津町１丁15番21号）
　　南海バス「石津神社前」すぐ（堺東より約10分）
　　国道26号線（阪神高速堺線側道）沿い
・建　　立　平成22年11月３日
　　石津神社社殿御造営20周年記念事業実行委員会
・連 絡 先　石津神社　072-241-0935

石津神社社殿御造営20周年を記念するとともに、晶子を顕彰し、後世に引き継ぐため、当神社とゆかりの深い石津川を詠った晶子の短歌二首を刻んだ歌碑が建立された。

明治43（1910）年8月に発表された、「古さとの小き街の碑に彫られ百とせの後あらむとすらむ」の歌のとおり、まさしく百年後の平成22（2010）年に建立できるようにとの思いで、計画が進められた。

与謝野晶子が詠んだ石津川の清い流れのように世の中が平和で、人の心も澄むようにとの祈りを込め、石津神社境内に建立されている。